

杉本賞受賞講演

産婦人科内視鏡下手術

— *安全性の確立と技倆の向上を求めて* —

元日本産科婦人科内視鏡学会理事長

佐藤和雄

産婦人科内視鏡下手術

1. 内視鏡検査、内視鏡下手術の歴史
2. 内視鏡下手術の現況と教育、実習
3. 内視鏡下手術の技術認定制度の発足と歩み
4. Quo vadis , Chirurgia, Endoscopia et Academia Japonica ?

婦人科内視鏡の歴史

1930年代	腹腔鏡診断検査
1960年代	卵管結紮術
1970年代	骨盤内病変の処置(手術)
1980年代	主要な婦人科手術方法

内視鏡の先駆者

- Bozzini, Phillip (独) 1806年光源Lichtleiterを導入。胃の内腔を検査。
- Pantaleoni, Giancarlo (英) 1869年子宮腔内を検査、
hysteroscopy の開発。
- Kelling, Georg (独) 1901年犬の腹腔を内視鏡で観察。
検査への応用を示唆。
- Norment, WB (米) 1943年hysteroscopyの教科書。
- Palmer, ED (米) 1950年消化管出血に内視鏡検査と止血。
- Frangenheim, Hans (独) 1958年cold lightの導入と内視鏡、
特にculdoscopy、hysteroscopyについての教科書。
- Semm, Kurt (独) 1981年内視鏡下にappendectomy。
- Bruhat, MA & Hamou, J (仏) ロボット装置の開発。

北米における内視鏡下手術の変遷 (1975 ~ 2000)

1975	Rinoux	Bipolar Electrocoagulation
	Hulka	Spring-loaded clips
	Yoon	Silastic rings
1977	Gomel	Laparoscopy as the method of choice
1989	Reich	Laparoscopic hysterectomy

日本産科婦人科内視鏡学会 (1)

日本産科婦人科内視鏡
学会・学会委員会配
属

回数	開催年	場所	学会代表	会 長	所属医	演壇数	参加者数	備 記 事 項
準備	1973. 6.24	札幌		林 基之 山本 浩 杉本 彬	金沢大学 川崎市立病院 大原医科大学		27	
1	1975	名古屋	杉本 彬	可世水理夫	可世水理夫	3	44	日産婦、日本産科婦人科内視鏡
2	1974	東京		山本 浩	川崎市立病院	6	47	
3	1974	金沢		西田 悦寿	金沢大学	9	59	
4	1975	京都		杉本 彬	大原医科大学	7	63	
5	1975	仙台		福島 峰子	仙台大学	7	64	
6	1976	熊本		山本 豊作	豊科日本	6	57	
7	1976	神戸		高倉 美世	神戸市立中央市民病院	10	50	
8	1977	秋田		九峰 勝司	秋田大学	16	71	
9	1977	鹿児島		泉 一寿	鹿児島大学	11	36	
10	1978	福岡		門田 俊	九州大学	15	76	
11	1978	東京		飯塚 晃八	慶応義塾大学	6	51	
12	1979	東京		妹島 祥一	東京醫歯科大学	10	58	
13	1979	札幌		事務局		4	23	
14	1980	東京		妹島 祥一	東京醫歯科大学	4	33	学会設置
15	1980	大阪		杉本 彬	大原医科大学	13	49	
16	1981	東京		大川 公康	日本医科大学	13	53	
17	1981	岡山		田中 忠重	川崎医科大学	15	52	
18	1982	群馬		五十嵐正彦	群馬大学	16	66	
19	1982	名古屋		八村 豊昭	名古屋大学	13	36	
20	1982	横浜		森井 明和	慶応大学	20	162	
21	1982	福岡		新田 龍彦	九州大学	22	77	
22	1984	東京		飯元 正一	東京大学	13	144	学会に名称変更
23	1984	仙台		坂本 雅博	東北大学	26	137	
24	1985	神戸		高倉 美世	神戸市立中央市民病院	22	147	
25	1985	東京		百瀬 和夫	慶応大学	26	162	
26	1985	新潟		竹内 正七	新潟大学	26	134	会務強化
27	1987	大阪		杉本 彬	大原医科大学	41	246	
28	1988	東京		飯塚 晃八	慶応義塾大学	61	302	
29	1989	鹿児島		永田 行博	鹿児島大学	59	243	
30	1990	東京		岩崎 寛和	筑波大学	57	242	
31	1991	大阪		谷澤 彬	大阪大学	53	301	
32	1992	横浜		水口 弘明	横浜国立大学	65	300	病院直轄
33	1993	名古屋		河上 征治	愛知医科大学	34	352	
34	1994	東京		佐藤 和雄	日本大学	59	366	事務局分設 (M&J) 発議
35	1995	仙台		九峰 雅	東北大学	103	320	
36	1996	千葉		寺川 直樹	鳥取大学	122	372	

日本産科婦人科内視鏡研究会・学会の歴史(1)

- 1973・6・24: 研究会の発足: 1973・6・24 (札幌厚生年金会館) 「骨盤内視鏡のつどい」(司会:山本浩) 参加:27名で開催され、その折(林基之)、山本浩、(杉本修)(発起人)他27名によって林教授提案の“産婦人科内視鏡研究会”の名称でコルポスコープを除くすべての産婦人科内視鏡を対象とする研究会(杉本修会長1973～96)が発足した(日本産科婦人科内視鏡学会誌 5巻1号、1989年11月)。
- 1973・10・27: 第1回研究会 可世木辰夫会長 (名古屋)
- 1984・2・4: 第22回研究会 坂元正一会長 (東京) 学会に名称変更し、
日本産科婦人科内視鏡学会となる。
- 1986・7・23: 第26回学会 竹内正七会長 (新潟) 会則制定。
- 1992・7・24～25: 第32回学会 水口弘会長 (横浜) 保険適用。
- 1993・8・4～5: 第33回学会 河上征二会長 (名古屋) 20周年記念大会
- 1994・8・4～5: 第34回学会 佐藤和雄会長 (東京) メヂカルサプライに事務委託。
- 1995・8・3～4: 第35回学会 矢嶋聡会長 (仙台) 教育担当新設。



第28回日本産科婦人科学会総会 教育講演をされる林教授 於松本（昭和51年）（1976年）

第28回日本産科婦人科学会総会 教育講演：女子不妊症の診療
ー特に手術的操作について（会長：岩井正二信大教授 松本 1976）

林基之教授のCuldoscopy診断 (s40年頃)





東邦大産婦人科柴田先生とSemm教授 Kiel大學 1978 ?

Culdoscope採卵



術者; 久保、後姿; 柴田

1972年頃(S47)

久保名誉教授提供



クルドセット



故杉本修会長

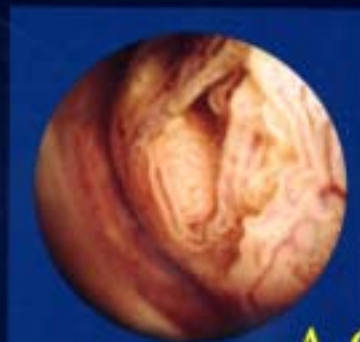
杉本百代先生提供



故杉本会長、岩田初代理事長 1993夏

杉本百代先生提供

O. Sugimoto



A Color Atlas of
Hysteroscopy



Springer



故山本浩先生

岩田元理事長提供



検診中の Hinselmann

1924年第1号Kolposcop完成、
1925年論文発表

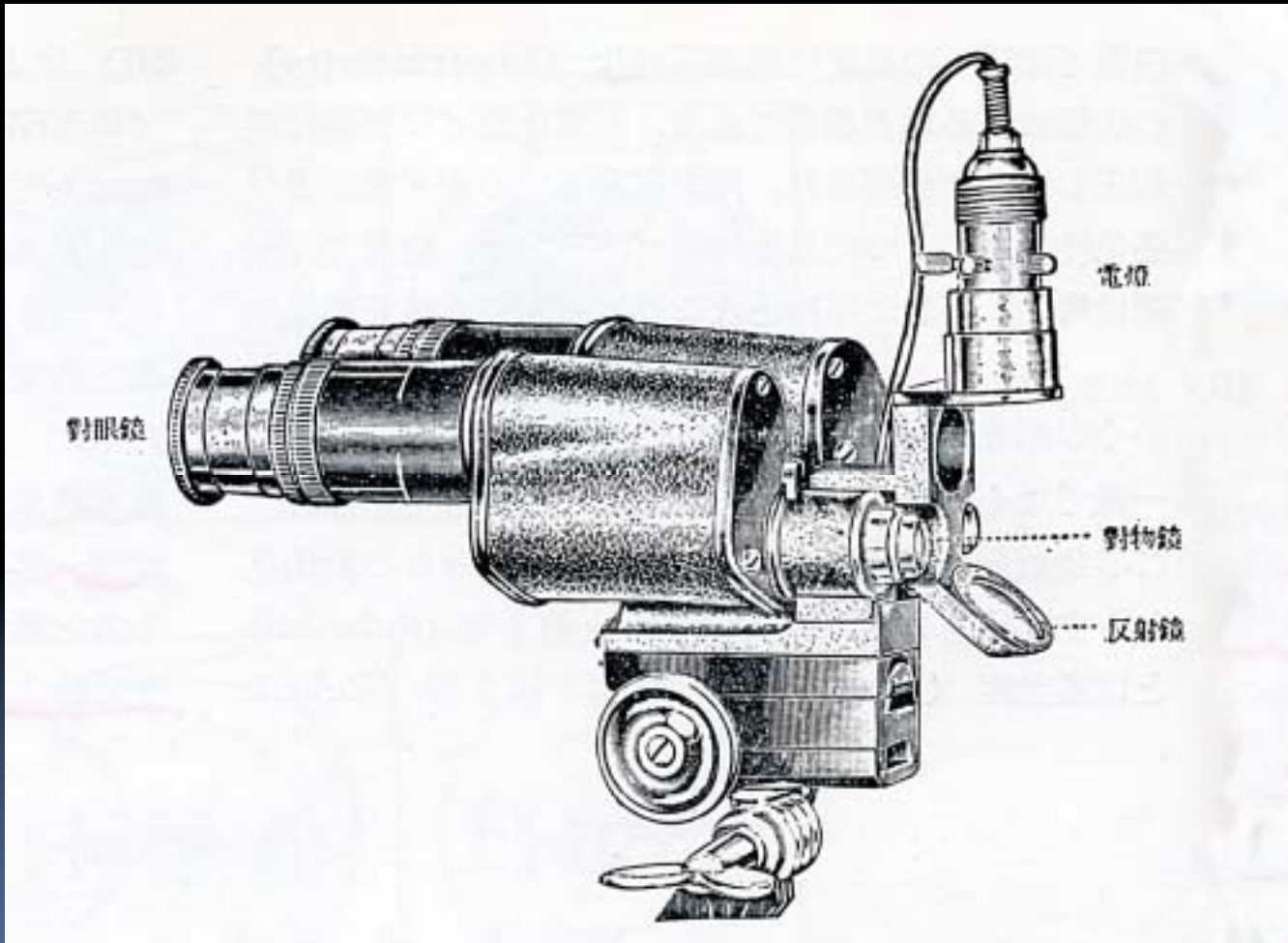
Muench. Med . Wochenschrift. 72:1733

吉村教授提供

Hinselmann コルポスコープ



Hinselmann コルポスコープ光学装置





安藤 暁一 教授

腔 鏡 診

頸腔部癌の前期検診

第 2 版

慶応大学名誉教授 安 藤 晝 一

産婦人科選書 第 21 集

東 京 醫 學 書 院 大 阪

1961発行

日本産科婦人科内視鏡学会（2）

37	1997	東京	岩田嘉行	荒木 勤	日本医科大学	109	472	理事長制;岩田嘉行理事長先生
38	1998	川崎		岩田 嘉行	川崎市立川崎病院	117	420	25周年記念大会
39	1999	大阪	佐藤和雄	星合 昊	近畿大学	158	504	佐藤和雄理事長
40	2000	東京		平川 舜	東邦大学	145	498	
41	2001	長崎		石丸 忠之	長崎大学	168	570	第1回学会賞表彰
42	2002	東京		高山 雅臣	東京医科大学	161	529	第2回学会賞s表彰
43	2003	京都	星合 昊	杉並 洋	京都医療センター	230	682	星合理事長、技術認定第1回合格者発表
44	2004	東京		野澤 志朗	慶應義塾大学	252	693	ポスターセッション新設、
45	2005	宝塚		伊熊健一郎	宝塚市立病院	262	750	
46	2006	東京	堤 治	武谷 雄二	東京大学	255	746	生殖外科学会との統合決定
47	2007	大阪		佐治文隆	呉医療センター	133	439	堤 治理事長、16th ISGE、 8th APAGEと合同開催
48	2008	横浜		石塚 文平	聖マリアンナ医科大学	284	780	

日本産科婦人科内視鏡学会の歴史(2)

- 1997・8・29～30: 第37回学会 荒木勤会長 (東京) **理事長制**
初代 岩田嘉行理事長
- 1999・8・6～7: 第39回学会 星合昊会長 (大阪) 第2代 佐藤和雄理事長
- 2000・8・4～5: 第40回学会 平川舜会長 (東京) **学会賞設置**
- 2002・8・1～2: 第42回学会 高山正臣会長 (東京) **技術認定制発足**
- 2003・7・25～26: 第43回学会 杉並洋会長 (京都) 第3代 星合昊理事長
技術認定第1回合格発表
- 2007・3・20: 第47回学会 佐治文隆会長 (大阪) 第4代 堤治理理事長
- 2007・3・16～21: 16th ISGE、8th APAGE 星合昊会長 (大阪)



岩田初代理事長



佐藤第2代理事長



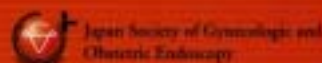
星合 昊 第3代理事長

Final program & Abstract book

16th
Annual Congress of
International Society for
Gynecologic Endoscopy

Safety, Simplicity, Standardization

March 18(Sun.) -21(Wed.) 2007 | Osaka, Japan



Final program & Abstract book

8th
Annual Congress of
the Asia Pacific Association for
Gynecologic Endoscopy
and Minimally Invasive Therapy

March 16_(Fri.) ~ 18_(Sun.) 2007 | Osaka, Japan



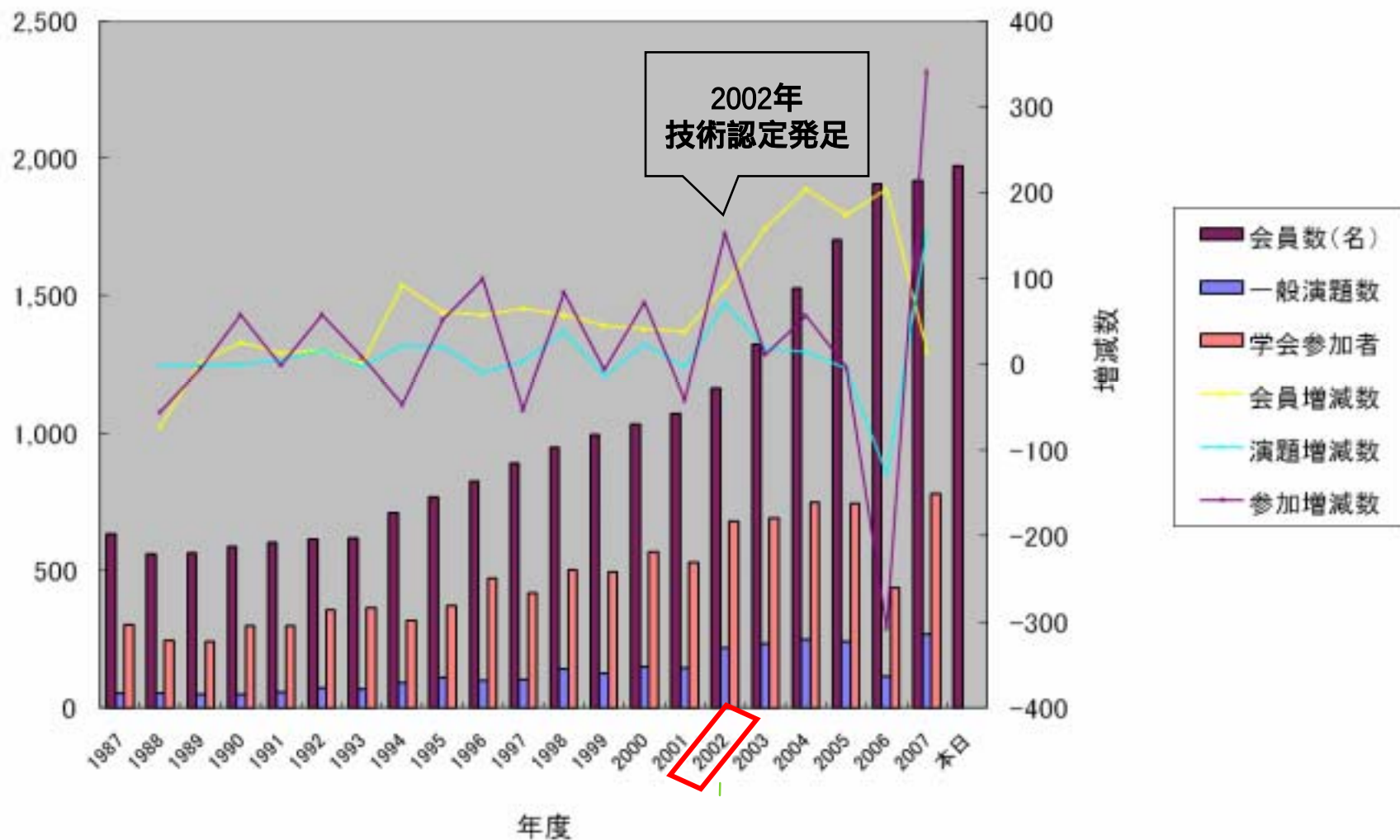
Japan Society of Gynecologic and
Obstetric Endoscopy





堤 治 第4代理事長

会員数等推移



産婦人科内視鏡下手術

1. 内視鏡検査、内視鏡下手術の歴史
2. 内視鏡下手術の現況と教育、実習
3. 内視鏡下手術の技術認定制度の発足と歩み
4. Quo vadis , Chirurgia, Endoscopia et Academia Japonica ?

内視鏡下手術の特性

- 低侵襲手術
- 術後の早期回復
- 術後合併症の減少
- 外来手術処置への応用
- 医療費の節減

内視鏡下手術の特徴

長所

1. 傷が小さい
2. 術後疼痛が少ない
3. 入院期間が短縮できる
4. 早期社会復帰が可能
5. 術後癒着が少ない
6. 骨盤内の死角の解消
7. 拡大視した術野で手術が可能
8. 電気メスなど特殊器具の使用が可能

短所

1. 特殊機器・器具が必要
2. 全身麻酔が必要
3. 骨盤高位の体位が必要
4. 気腹が必要
5. 内視鏡下手術に特異的な合併症
6. 摘出物の回収が困難な場合がある
7. 手術操作に多少の制限がある
8. 手術時間が延長する傾向がある

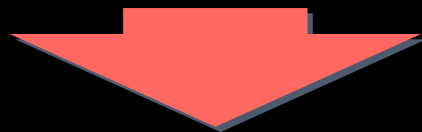
腹腔鏡下子宮全摘術は社会に貢献するのか？

YES

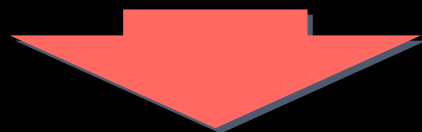
- 安全性の高い手術である。
- 患者のQOL向上に寄与する。
(術後疼痛の減少、入院期間の短縮、早期の社会復帰、etc)
- 医療コストは高い。
- リューサブル機器の使用によりコストの軽減は可能である。
- 費用対効果は高い。

子宮筋腫核出術、卵巣腫瘍（嚢腫）摘出術、子宮内膜症手術などについても同様のことが言われている。

腹腔鏡下手術は社会に貢献する。



腹腔鏡下手術をさらに広めていく必要がある。

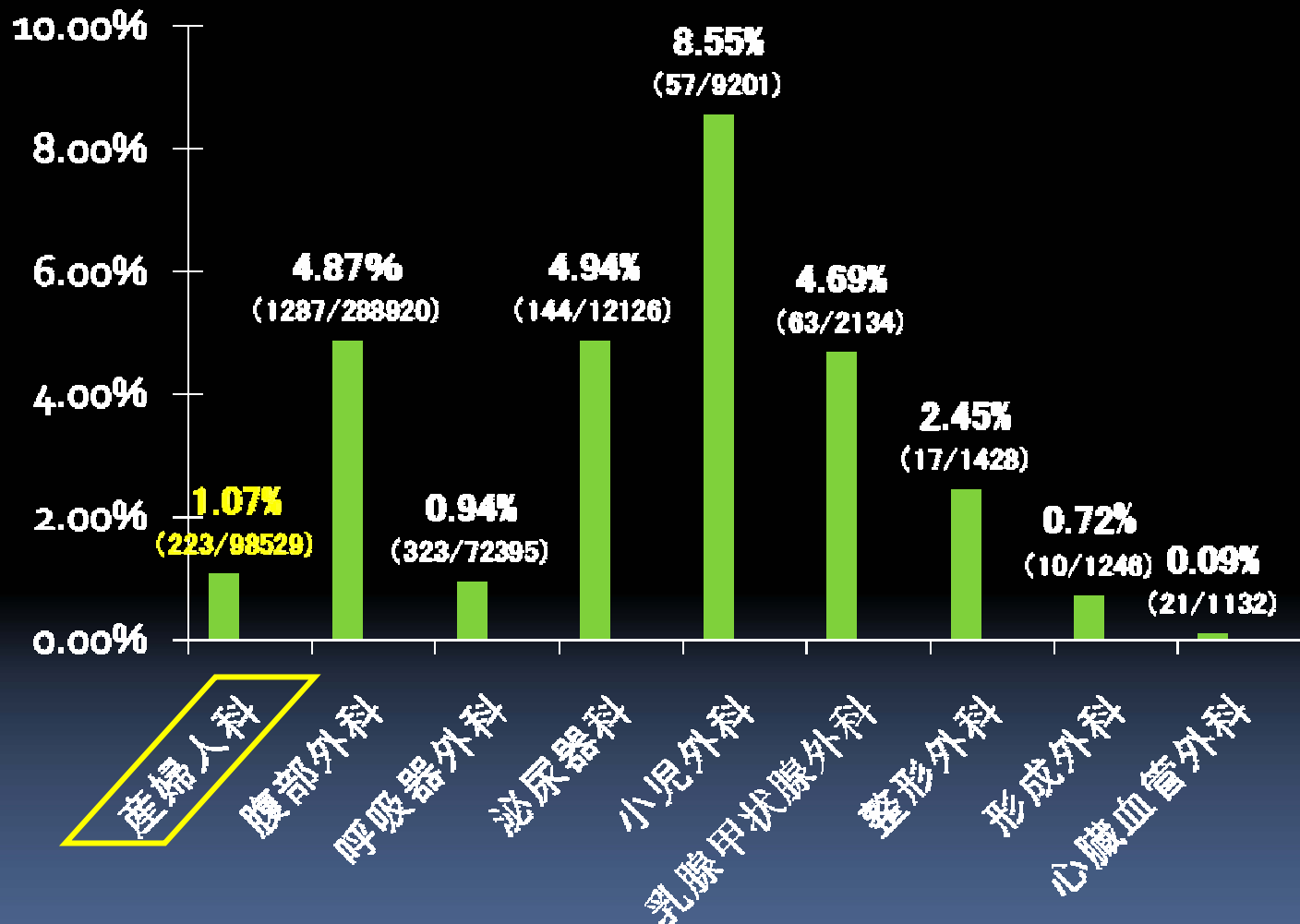


**安全性をさらに高めていく。
どのような注意およびテクニックが必要か？**

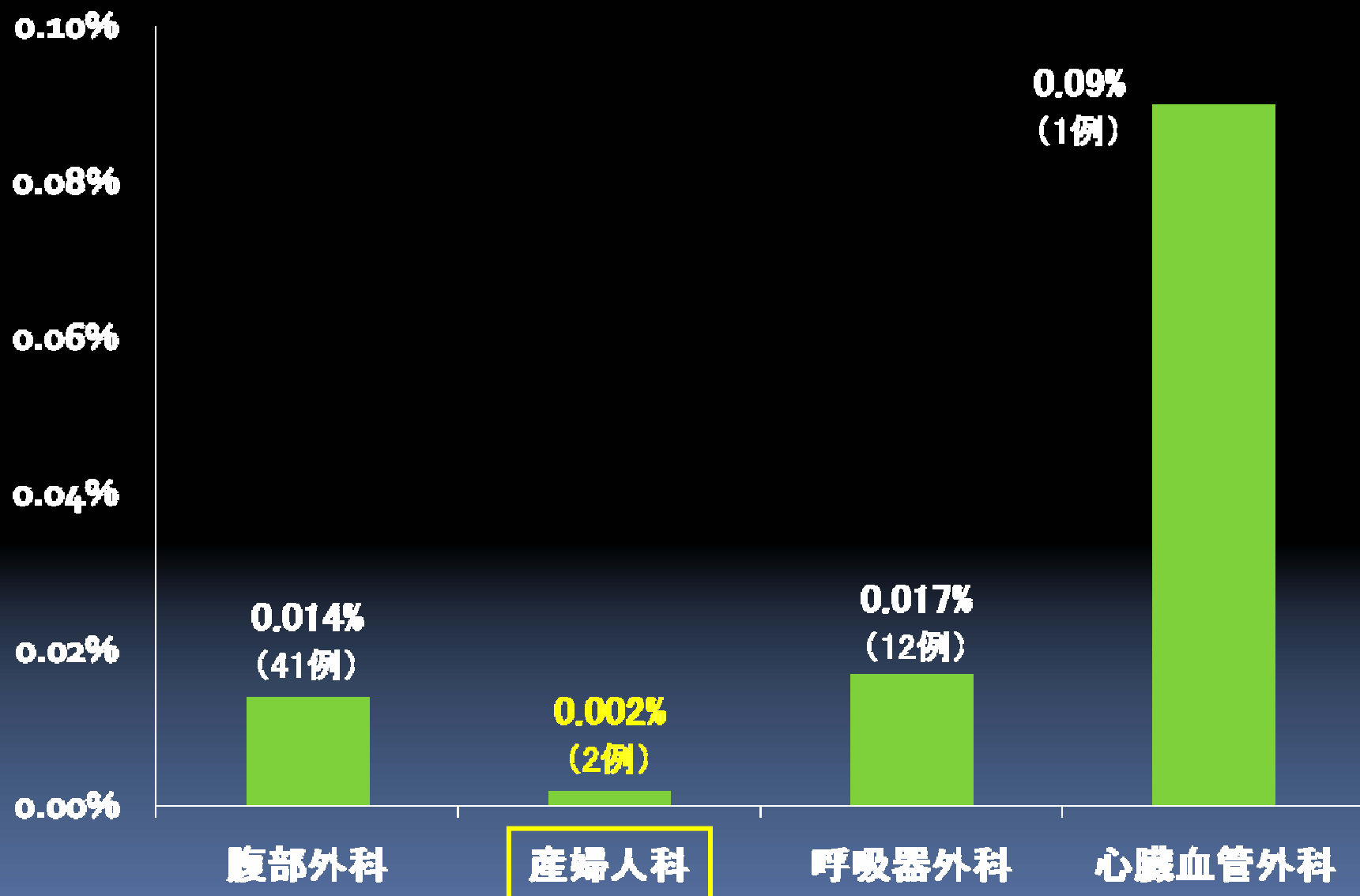
外科手術術式の基本 3 S

- Safety (安全性)
- Simplicity (簡便性)
- Standardization (普遍性)

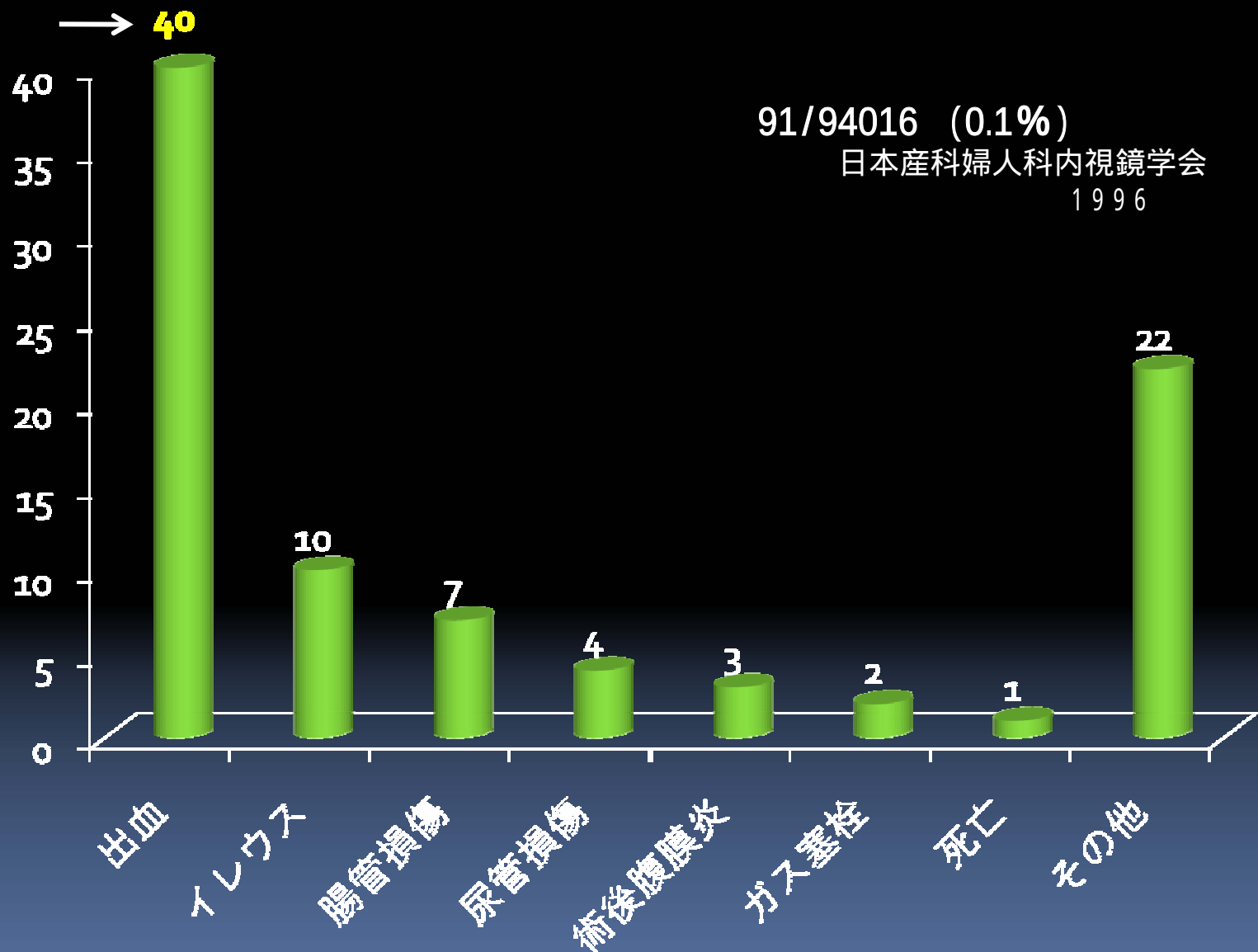
各科合併症頻度(2004)



各科内視鏡下手術死亡例% (2004)



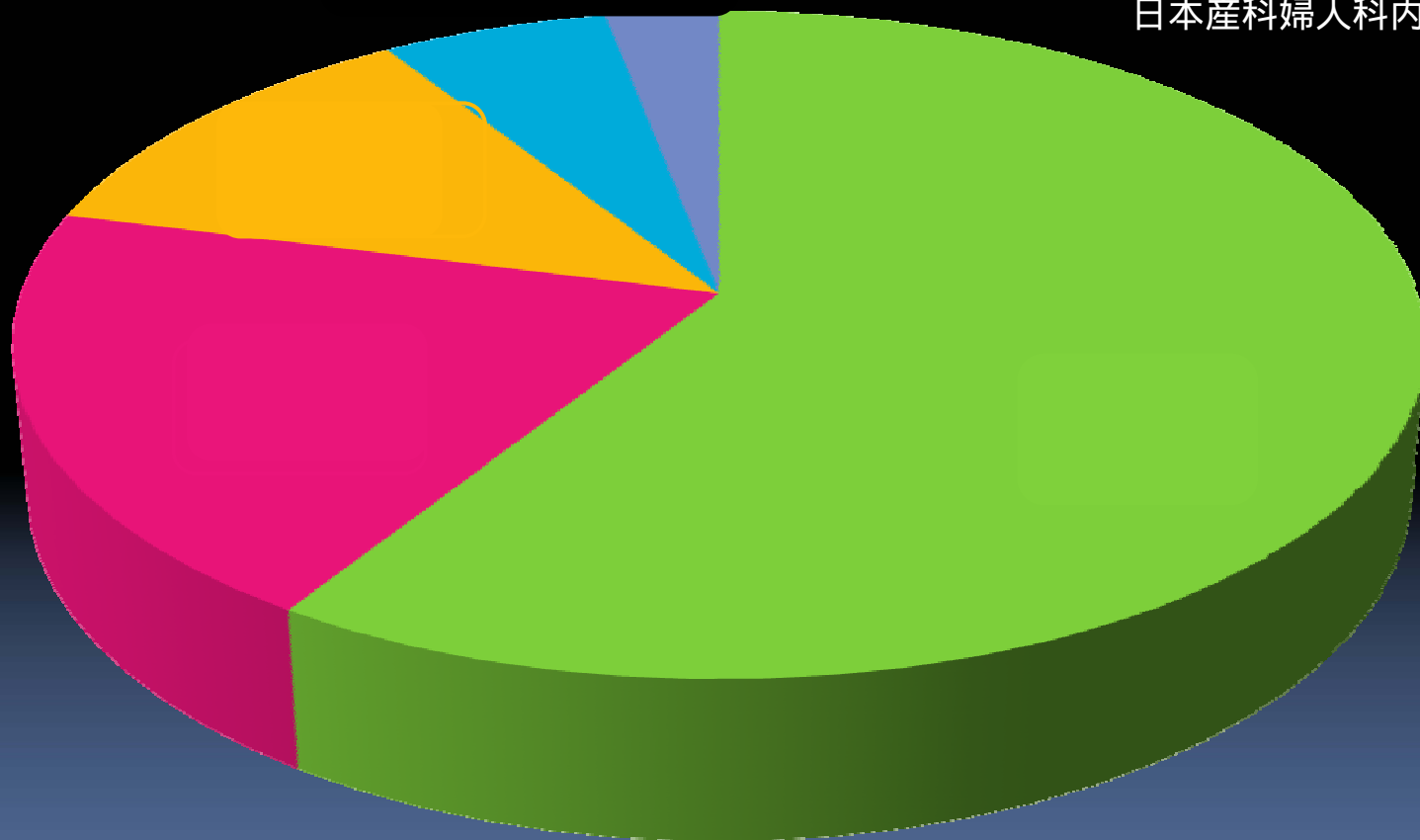
術後開腹症例 (1996)



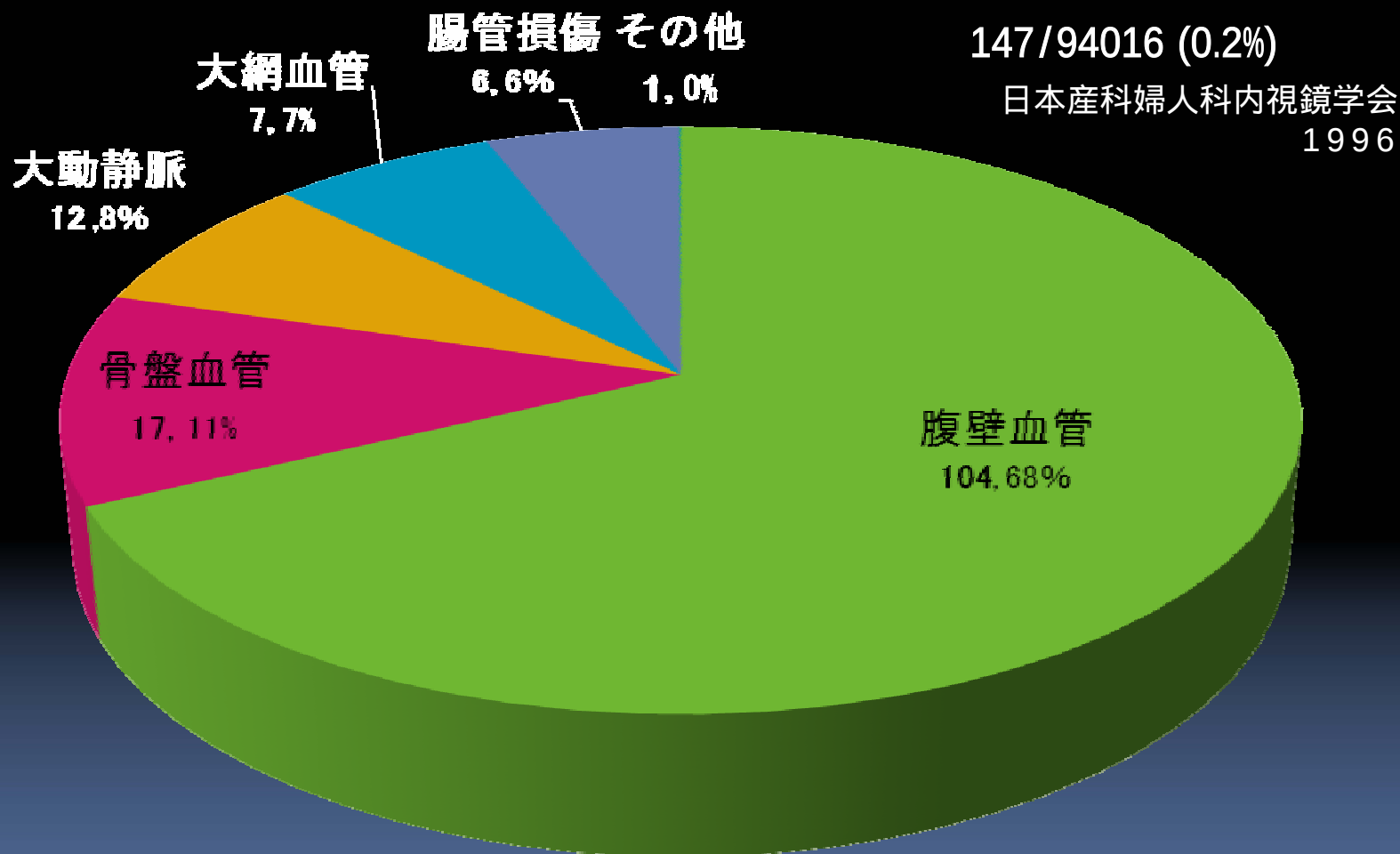
腹腔鏡下手術の合併症 (1996)

751/94016, (0.8%)

日本産科婦人科内視鏡学会
1996



血管損傷の部位 (1996)



腹腔鏡の实地マニュアル

1996年版

JSGE

日本産科婦人科内視鏡学会

日本産科婦人科内視鏡学会：実技研修会



実践に即したドライラボトレーニング

第20回実技研修会(2006年6月24日)：ATC(富士宮)でのトレーニング

伊熊理事提供

実技研修会記録

回	開催年	開催日数	会場	参加者	責任者	講師
1	1996	1	タイコ	26	佐藤和雄	津端捷夫、伊熊健一郎、堤 治、可世木久幸、澤田富夫
2	1997	1	J&J	23	佐藤和雄	津端捷夫、伊熊健一郎、堤 治、可世木久幸、澤田富夫
3	1997	1	タイコ	10	荒木 勲	伊熊健一郎、堤 治、可世木久幸、武内裕之
4	1998	1	J&J	34	荒木 勲	深谷孝夫、伊熊健一郎、可世木久幸、武内裕之、百枝幹雄
5	1998	2	J&J	30	荒木 勲	伊熊健一郎、可世木久幸、廣田 穰、林 保良、村上 節、大須賀穰
6	1999	2	J&J	30	荒木 勲	伊熊健一郎、可世木久幸、廣田 穰、武内裕之、西井 修
7	1999	2	J&J	30	荒木 勲	伊熊健一郎、可世木久幸、西井 修、村上 節、森田峰人
8	2000	2	タイコ	31	伊熊代行	伊熊健一郎、可世木久幸、伊藤將史、廣田 穰、森田峰人
9	2000	2	J&J	26	伊熊代行	伊熊健一郎、可世木久幸、今野 良、塩田 充、木挽貢慈
10	2001	2	タイコ	18	荒木 勲	伊熊健一郎、可世木久幸、原田清行、藤下 晃、松本 貴
11	2001	2	J&J	29	伊熊代行	伊熊健一郎、可世木久幸、武内裕之、吉田仁秋、松本 貴
12	2002	2	J&J	21	伊熊代行	伊熊健一郎、可世木久幸、奥田喜代司、武内裕之、森田峰人
13	2002	2	タイコ	26	伊熊代行	伊熊健一郎、原田清行、藤下 晃、伊藤將史、森田峰人
14	2003	2	J&J	24	伊熊代行	伊熊健一郎、可世木久幸、奥田喜代司、武内裕之、森田峰人
15	2003	2	タイコ	12	星合 晃	伊熊健一郎、武内裕之、斉藤寿一郎、森田峰人、北出真理、菊地 盤
16	2004	2	タイコ	29	石塚文平	伊熊健一郎、武内裕之、斉藤寿一郎、森田峰人、菊地 盤、島貫洋人
17	2004	2	J&J	24	伊熊代行	伊熊健一郎、武内裕之、斉藤寿一郎、森田峰人、北出真理、菊地 盤、浅川泰行
18	2005	2	J&J	30	伊熊代行	伊熊健一郎、武内裕之、斉藤寿一郎、森田峰人、北出真理、島貫洋人、浅川泰行
19	2005	2	タイコ	29	石塚文平	伊熊健一郎、武内裕之、斉藤寿一郎、森田峰人、北出真理、奥田喜代司、浅川泰行
20	2006	2	タイコ	26	堤 治	堤 治、伊熊健一郎、森田峰人、武内裕之、斉藤寿一郎、菊地 盤、浅川泰行
21	2006	2	J&J	30	伊熊代行	伊熊健一郎、斉藤寿一郎、奥田喜代司、浅川泰行、木挽貢慈
22	2007	2	J&J	23	伊熊健一郎	伊熊健一郎、森田峰人、武内裕之、斉藤寿一郎、北出真理、浅川泰行
23	2007	2	タイコ	24	伊熊代行	伊熊健一郎、森田峰人、武内裕之、斉藤寿一郎、北出真理、浅川泰行
24	2008	2	タイコ	33	安藤正明	安藤正明、伊熊健一郎、斉藤寿一郎、北出真理、浅川泰行、菊地 盤、金尾祐之

第1回実地研修会(1996)

日本産科婦人科内視鏡学会第1回実地研修会。富士市，1996(H8) 年11月



産婦人科 内視鏡下手術 スキルアップ

編集
日本産科婦人科内視鏡学会

日本産科婦人科内視鏡学会ガイドライン作成委員会

【作成項目】	【作成担当】	【評価委員】
・ 子宮外妊娠	明楽重夫	竹下俊行
・ 不妊症	村上 節	深谷孝夫
・ 卵巣腫瘍	伊熊健一郎	堤 治
・ 単純子宮全摘出術	塩田 充	星合 昊
・ 子宮筋腫核出術	森田峰人	深谷孝夫
・ 子宮内膜症	武内裕之・熊切 順	堤 治
・ 粘膜下筋腫	齊藤寿一郎	石塚文平・林 保良

* 評価委員：表記の項目に限定せず全ての項目も評価する

婦人科腹腔鏡下手術の難易度

レベル	手術手技
0	診断的腹腔鏡（不妊検査、セカンドルック）
1	付属器切除（卵巣嚢腫、外妊）、内膜症病巣焼灼 体腔外嚢胞切除、ドレリー手術、LUNA
2	LAVH（子宮筋腫）、子宮筋腫核出術（漿膜下） 体腔内嚢胞切除、外妊保存手術、癒着剥離
3	LH（内膜症合併例）、子宮筋腫核出（筋層内） TLC（体腔内嚢胞切除）、高度癒着剥離、造膈術
4	広範性子宮全摘、リンパ節郭清、尿道吊上

技量取得レベルの内容

- Level 1 -

- Diagnostic Laparoscopy
- Tubal Sterilization
- Cyst Drainage
- Lysis of Mild Adhesion
- Ectopic Pregnancy
- Endometriosis Stage 1 & 2

技量取得レベルの内容

- Level 2 -

- BSO, LAVH & LSH
- Subserosal myomectomy
- Endometriosis Stage 3 & 4
- Appendectomy
- Cystectomy
- Moderate adhesiolysis
- Neosalpingostomy

技量取得レベルの内容

- Level 3 —

- Total hysterectomy
- Intramural myomectomy
- Retropubic urethropexy
- Pelvic floor procedures
- Cul-de-sac obliteration
- Tubal reanastomosis
- Pelvic lymphadenectomy

J.J.

内視鏡下手術技量到達レベル(米国)

- | | |
|---------------------|-------------------------------|
| • Novice | 1 st Year Resident |
| • Advanced Beginner | 3 rd Year Resident |
| • Competent | Finishing Resident
Level 1 |
| • Proficient | Level 2 |
| • Expert | Level 3 |
| • Master | ? |

レジデント内視鏡研修プログラム (*Northwestern University, Chicago*)

- Weekly Endoscopy Rounds
- Laparoscopy Training Facility
Northwestern Center for Advanced Surgical Education
- Annual Animal Laboratory Workshop
- Supervision by Skilled Endoscopic Surgeons

J.J. Sciarra

産婦人科内視鏡下手術

1. 内視鏡検査、内視鏡下手術の歴史
2. 内視鏡下手術の現況と教育、実習
3. 内視鏡下手術の技術認定制度の発足と歩み
4. Quo vadis , Chirurgia, Endoscopia et Academia Japonica ?

佐藤理事長就任挨拶 (1999年)

- 1) 技術の普及、統一化と安全性確立のための教育研修などの教育事業の充実
- 2) 学問的发展を期するため学会賞の設置
- 3) 学会誌の充実と拡張
- 4) その他

(日本産科婦人科内視鏡学会誌 15 : 21, 1999)

技術認定制度の導入

- 2000年：研修指導医選定基準
教育担当：ワーキンググループ
アンケート調査施行
- ・ 2001年：技術認定制度規則の検討
学術、教育担当
- ・ 2002年：技術認定制度規則の承認
第42回日本産科婦人科内視鏡学会総会

注：2002年：日本内視鏡外科学会技術認定制度導入計画

技術認定制度

- 技術認定制度委員会 （任期2年）
委員長、委員
- ・ 技術審査委員 （3年毎更新）
親委員(本人以外の全審査委員を匿名で審査)
一般委員（親審査委員2名で審査）
- ・ 技術認定の実施
応募申請、書類審査、ビデオ審査、
可否判定: 理事会で審議決定
- ・ 理事長名で認定証の発行 （5年毎更新）

技術認定委員会 (第1回)

委員長：堤常務理事

委員：佐藤理事長、野沢常務理事、星合常務理事、

可世木評議員、大須賀評議員、久布白評議員、武内評議員、

明楽評議員、西井評議員、

松崎敏夫事務局長

日本産科婦人科内視鏡学会技術認定制度規則

第 1 章 総則

第 1 条 目的

産婦人科領域における内視鏡の歴史は古く、近年、急速な発展を遂げ、腹腔鏡や子宮鏡および卵管鏡を用いた低侵襲の診断や治療があらゆる婦人科疾患を対象に行われつつある。内視鏡手術は閉鎖された空間で繊細な周辺機器を用いて行う手術であり、機器に対する十分な知識と高度な技術が求められる。日本産科婦人科内視鏡学会技術認定制度は、産婦人科領域における内視鏡手術に携わる医師の技術と知識を評価し、内視鏡手術を安全かつ円滑に施行する者を認定し、本邦産婦人科領域における内視鏡手術の発展と普及を促し、さらには国民の健康維持に寄与することを目的とする。

注：日本産科婦人科内視鏡学会技術認定制度委員会において規定する内視鏡手術とは、腹腔鏡、子宮鏡等を用いて行う手術を意味するものとする。

第 2 章 技術認定制度委員会

第 2 条 技術認定制度委員会の設置

日本産科婦人科内視鏡学会（以下、本会と略記）は、前条の目的を達成するために技術認定制度委員会を置く。

第 3 条 技術認定制度委員会の構成

- 1）委員長 1 名と委員若干名

第 4 条 技術認定制度委員会の業務

- 1）技術認定制度委員会は、認定制度にかかわるすべての問題に対処する。
- 2）技術審査委員の審査選定を行う。

第 5 条 技術認定制度委員会委員の資格

- 1）技術認定制度委員会委員は、日本産科婦人科学会専門医でなければならない。
- 2）技術認定制度委員会委員は本会会員であると同時に、本会技術認定証取得者でなければならない。
- 3）技術認定制度委員会委員は、本学会の理事長が推薦し、理事会の承認を得る。

会告 (2002年)

昨年行われた第42回日本産科婦人科内視鏡学会総会において技術認定制度規則が承認されました。2002年11月、2003年1月に会員の皆様へご案内の通り、本年2003年2月1日から本学会として第1回目の技術認定申請を受付けいたします。

詳細については学会ホームページと16ページから掲載の規則、申請書類、会員へのお知らせに記載の申請方法を参照ください。

(日本産科婦人科内視鏡学会誌18:4, 2002)

技術認定申請の審査費用は返却いたしません。 申請方法を充分ご確認ください、必要書類に漏れのない様に記入の上申請してください。

【 】技術認定申請要件（規則第 14 条より）

技術認定を申請する者（以下、技術認定申請者と略記）は次に定める要件を満たす必要がある。

- 1) 継続 3 年以上本学会会員であること。
注：3 年とは入会后連続して 36 ヶ月以上の会員履歴をいう。
- 2) 日本産科婦人科学会認定産婦人科専門医であること。
- 3) 通算 2 年以上の産婦人科内視鏡手術の修練を行っていること。ただしこの 2 年以上の修練とは専門医取得以後の期間とする。
- 4) 術者として以下の規定件数以上の内視鏡手術の経験を有する。
腹腔鏡下手術で申請するものは 100 件
子宮鏡下手術で申請するものは 50 件
注：日本内視鏡外科学会への申請は腹腔鏡下手術のみで行う。
- 5) 産婦人科内視鏡手術に関係する学会、研究会、研修会、セミナー等に複数回出席していること。
- 6) 国内外において、筆頭演者として学会発表 5 題以上の内視鏡に関係する発表があること*。
- 7) 国内外において、内視鏡に関係する論文があること【論文 5 題以上（内 1 題は筆頭著者）】*。

* 本学会主催の実技研修会、学術研修会及び日本内視鏡外科学会主催の教育セミナーへの参加 1 回は、学会発表 1 回、論文発表（筆頭著者以外）1 回に相当する。学会発表と論文発表 2 回分まで研修会参加で代替することができる。なお代替の場合にも内視鏡手術に関係する学会発表 3 題、論文発表 3 題（内筆頭 1 題以上）は必須とする。

技 術 認 定 申 請 方 法

更 新 申 請

技術認定申請の審査費用は返却いたしません。 申請方法を充分ご確認ください、必要書類に漏れのない様に記入の上申請してください。

【 】技術認定更新の要件

対象

- 1) 技術認定を取得し、5 年を経過したもので、現在内視鏡手術に従事しているもの。
- 2) 本学会会員であり、会費を継続して納入していること。
- 3) 特例として、産休、留学、病気療養等で臨床を中断したものは、更新申請を延期することができる。延期願いは、当該年度に本人が申請し、技術認定制度委員会で審査する。期間は原則として1 年とする。

(延長期間中は認定医として扱い、学会ホームページの認定医リストからも削除しない)

(2) 更新審査

更新審査は、書類審査と手術ビデオによる審査からなる。

ビデオによる審査は新規申請と同様な手順で行うが、要件をみたせば免除される。

日本産科婦人科内視鏡学会技術認定 腹腔鏡ビデオ審査基準・採点表

ビデオ審査にあたっては、内視鏡下手術操作における安全性と確実性について評価を行い、評価項目は以下にあげる項目で、それぞれの小項目をすべて以下基準で判定する。

- 満点は50点、30点以上を合格とする。
- 評価項目に該当する手技が収録内容にない場合は「0点」とする。
- 安全原則違反が認められた場合には、総合点数にかかわらず不合格とする。
- 十分な評価が不可能なビデオ内容の場合は、不合格となる可能性がある。
- 審査基準は公表する。但し審査委員は公開しない。
- 要望がある場合は審査結果並びにコメントを申請者に開示する。

評価点	
配点	評価
2点	○
1点	
0点	×

評価項目	評価
・トロカールの挿入・抜去と視野の確保	
1 トロカール（セカンド・パンクチュア以降）の挿入と維持は適切か	
2 視野が鮮明な画像を保っているか	
3 適切な機器で術野は十分展開されているか	
4 距離・方向が適切な視野が得られているか	
5 トロカールの抜去を確認しているか	
6 助手との動きは術者とよく連携しているか	
・切開、剥離操作	
7 器具の出し入れは安全に行われているか	
8 操作の際、臓器を愛護的に扱っているか	
9 切開は、正確にスムーズに行われているか	
10 剥離は、適切な補助のもと、正しい剥離面で行われているか	
11 電気メスや超音波凝固切開装置などの使用法は適切か	
・縫合、結紮操作	
12 針系の腹腔内への挿入ならびに腹腔外への針の抜去は適切に行なわれているか	
13 運針は適切に行なわれているか	
14 結紮は確実に速やかに行なわれているか	
・出血のコントロールと止血操作	
15 不必要な出血を回避できているか	
16 止血操作は迅速か	
17 バイポーラや超音波メスの選択とその使用法は適切か	
18 安全を確認しながら行われているか	
19 他臓器など不要な凝固を回避できているか	
・手術運営の良否	
20 手術としての完遂度は充分か	
21 安全性への配慮が充分か	
22 手術時間は適切か	
23 使用している機器は適切か	
24 使用している機器の特性を理解し、安全に使用しているか	
25 手術終了時に腹腔内の状況を確認しているか	
○ 合計点数	0

登録番号:

合・否 不合格

コメント

技術認定審査委員会での書類審査・ビデオ審査手順

認定規則 第14条と第15条に基づき資格要件がととのっているか審査

書類審査
合格

不合格決定

ビデオの審査を依頼する審査委員を申請者1名に対し2名決定

(注1)

1: 審査委員と申請者の施設は一致させない

2名の審査委員による審査

(注2)

1: 審査委員には申請者の名前は匿名で審査依頼

2名とも合格と判定

1名のみ合格判定

2名とも不合格と判定

合格決定

審査委員会委員による再審査

不合格決定

合格決定

保留

不合格

審査委員会・小委員会の合同 再々審査

合格決定

不合格決定

(注3)

1: 申請者へ審査をした審査委員名は公表しない。
2: 申請者より不合格理由問合せのある場合には審査委員会より回答

書類審査

ビデオ審査

技術認定の実施

- 第1回技術認定審査 (2003年7月25日認定)

申請者:130 (含審査委員応募:58)

合格者:118

注:親審査委員:7 審査委員:42

- 第2回技術認定審査 (2004年8月5日認定)

申請者:43

合格者:27



JAPAN SOCIETY OF GYNECOLOGIC AND OBSTETRIC ENDOSCOPY

技術認定証

認定番号 09XX - 001 - 0808

認定期間 2008年8月1日～2013年7月31日

殿

貴殿は 日本産科婦人科内視鏡学会 技術認定医であることを
証します

2008年8月1日

日本産科婦人科内視鏡学会

理事長 堤 治

技術認定審査結果記録

技術認定審査結果記録

内 訳			年度		2002年度		2003年度		2004年度		2005年度		2006年度		2007年度		平均
会員数/年度末					1,165		1,324		1,528		1,702		1,906		1,928		
申請受付期間					2003.2.1～3.15		2004.2.1～2.末		2005.2.1～2.末		2006.2.1～2.末		2007.2.1～2.末		2008.2.1～2.末		
公 示					2003.7.25		2004.8.5		2005.7.15		2006.8.4		2007.8.4		2008.8.1		
申請者数	新規	腹腔鏡	130		43		42		42		42		50		67		
		子宮鏡													8		
		合計													75		
	更新	腹腔鏡											91	80.5%			
		子宮鏡											4				
		合計											95				
	延 期											5	4.2%				
合格者数	新規	腹腔鏡	118	90.8%	27	62.8%	26	61.9%	25	59.5%	25	50.0%	26	38.8%	66.5%		
		子宮鏡											7	87.5%			
		合計											33	44.0%			
	更新	腹腔鏡											91	100.0%			
		子宮鏡											4	100.0%			
		合計											95	100.0%			
不合格者数	新規	腹腔鏡	12	9.2%	16	37.2%	16	38.1%	17	40.5%	25	50.0%	41	61.2%	22.5%		
		子宮鏡											1	12.5%			
		合計											42	56.0%			
	更新	腹腔鏡											0	0.0%			
		子宮鏡											0	0.0%			
		合計											0	0.0%			
認定医数累計	両方保持者（全認定医の内）												5	2.2%			
	差引入数		118		145		171		196		221		231				
認定医の会員数比			10.13%		10.95%		11.19%		11.52%		11.59%		11.98%				
新規申請者の会員数比（除く2種申請）			11.16%		3.25%		2.75%		2.47%		2.62%		3.63%				
審査委員数/認定医			49	41.5%	49	33.8%	49	28.7%	49	25.0%	60	27.1%	60	26.0%			
審査委員数/会員数				4.2%		3.7%		3.2%		2.9%		3.1%		3.1%			

新規 審査結果	2名共 合格				19		24		20		22		27			
	2名共 不合格				6		8		10		14		24			
	不一致				18		10		12		14		24			
	一致率				58.1%		76.2%		71.4%		72.0%		68.0%			
	不一致率				41.9%		23.8%		28.6%		28.0%		32.0%			

産婦人科内視鏡下手術

1. 内視鏡検査、内視鏡下手術の歴史
2. 内視鏡下手術の現況と教育、実習
3. 内視鏡下手術の技術認定制度の発足と歩み
4. Quo vadis , Chirurgia, Endoscopia et Academia Japonica ?

これからの内視鏡下手術 - 1998 -

Sutton & Diamond

Endoscopic Surgery for Gynecologists

- Fetal surgery
- Embryoscopy
- Outpatient local anesthetic laparoscopy
- Total laparoscopic hysterectomy
- Embolization of myomas

これからの内視鏡下手術の技術進歩 (2007)

- Robotic Surgery
- Telesurgery
- Transgastric Peritoneoscopy
- New Imaging Modality
- MRI Guided Focused Ultrasound
- Hysteroscopic Sterilization
- 3rd Endometrial Ablation



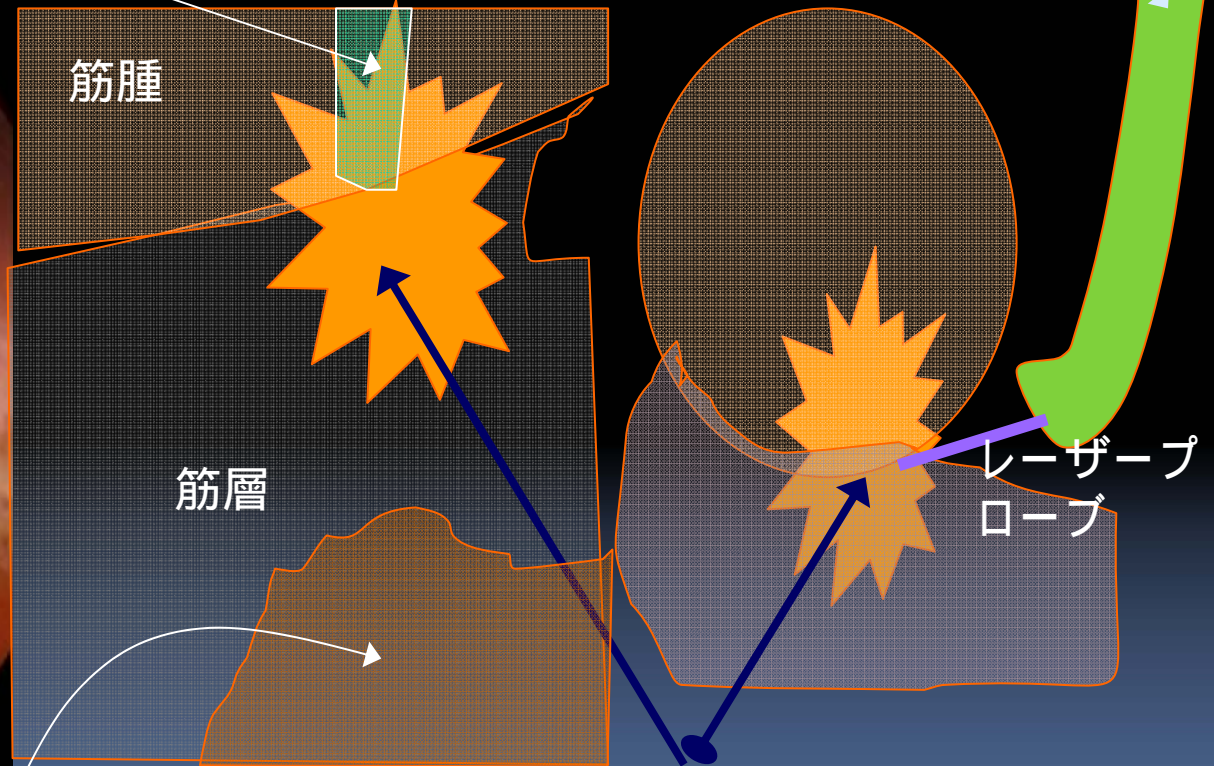
可世木式ヒステロスコープ(2008)

開発中の子宮鏡

レーザープローブ(照射中)



レーザー硬性鏡照射痕



レーザー照射部位は境界面筋腫側のため照射中の出血(-)



光源装置

子宮腔拡張液・処置器具

モニター

ビデオプロセッ
サー

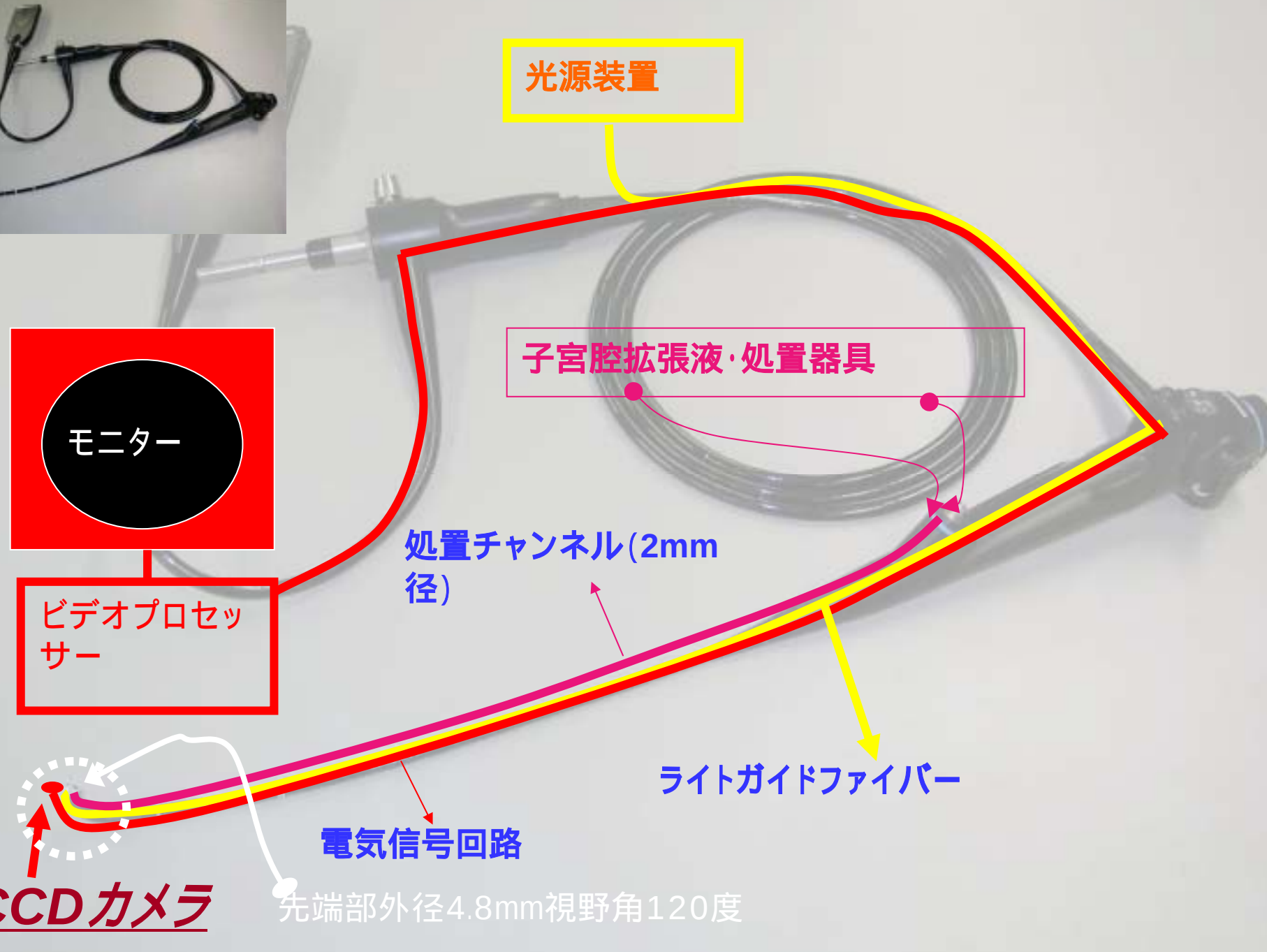
処置チャンネル(2mm
径)

ライトガイドファイバー

電気信号回路

CCDカメラ

先端部外径4.8mm視野角120度



種類	RS	LZ/FS	LZ/R	LZ/FDVOHS
画質			○	
操作性		○		○
危険度		○		○

RS: レゼクトスコープ

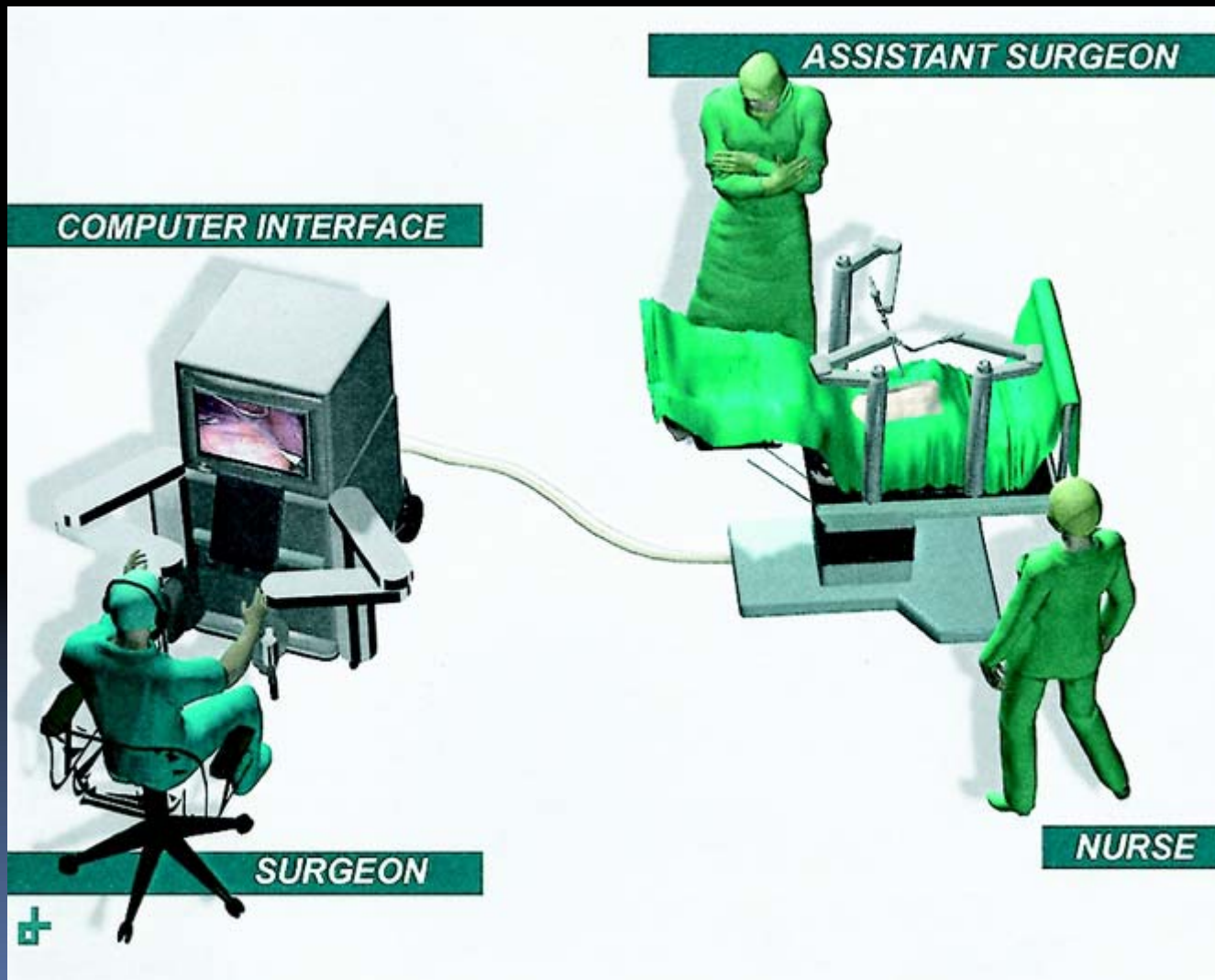
LZ/FS: レーザーファイバースコープ

LZ/R: レーザー硬性鏡

LZ/FDVOHS: レーザー + 開発中の子宮鏡

Telerobotic Laparoscopic Cholecystectomy

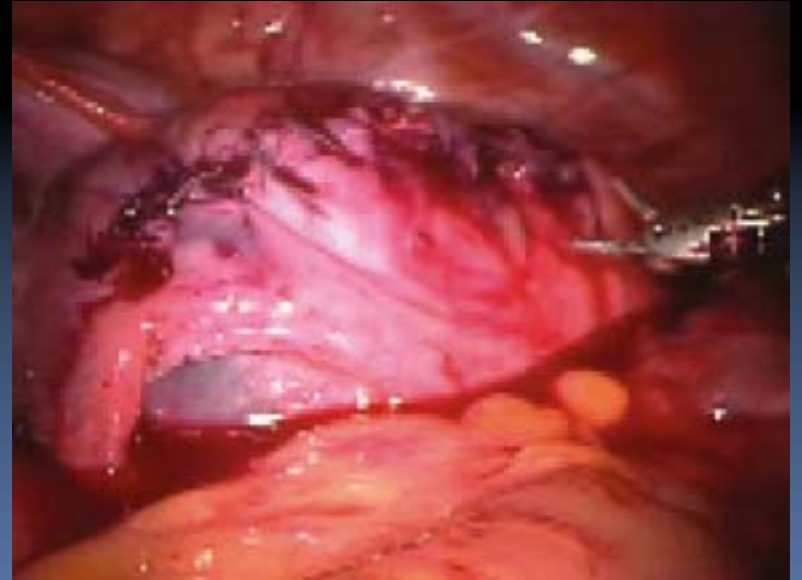
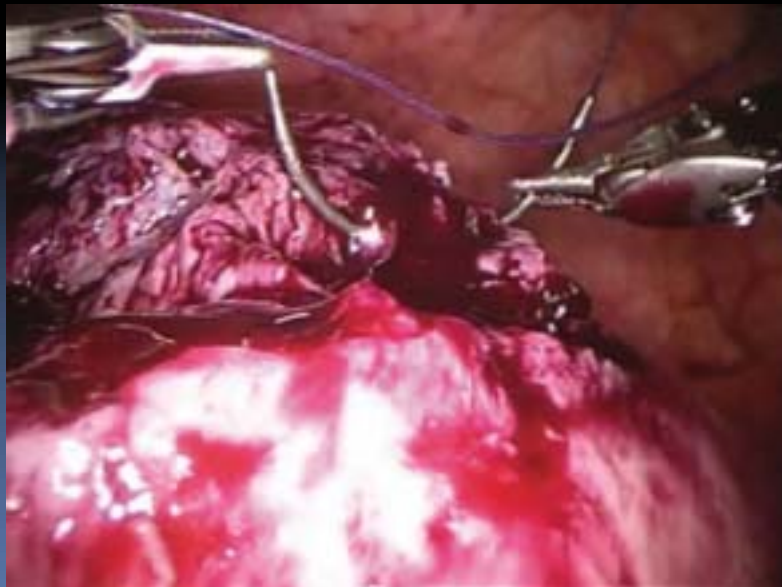
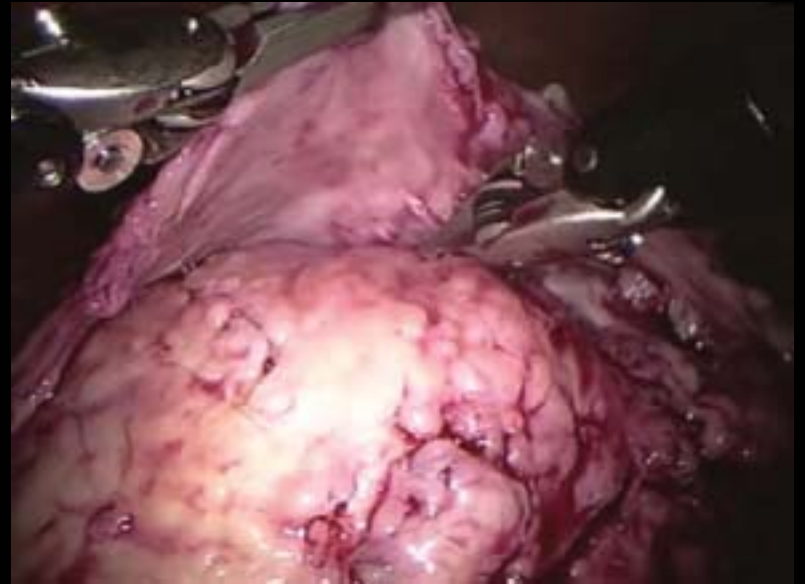
(2001)







Laparoscopy-assisted Robotic Myomectomy Using The da Vinci System



これからの婦人科手術は？

安全の確立

- 手術室のV I Pは患者であることを忘れていないか？
- 危機管理・ニアミス回避の対策(risk-proof)は万全か？

技倆・技術

- 3 S (safety, simplicity, standardization) の実践・確立は？
- 技倆・技術の研修と技術認定の一般化・定型化への努力は？
→ 認定制の確立・発展
- 研修への機器の応用と動物実習の拡大と充実は？
- 内視鏡下手術は良性疾患においてこれまでの婦人科手術を肩代わりできるか？
- 婦人科の悪性疾患の内視鏡下手術による治療は？

知識・経験

- 婦人科手術の進歩発展を促す原動力は医学周辺科学・技術の進歩か？
- 外科医療発展の基礎と期待はE B Mに基づく診療の実践ではないか？

謝辞

本講演にあたり第1回杉本賞選考委員会(吉村泰典委員長)のご足労と第48回日本産科婦人科内視鏡学会石塚文平会長、座長の労を執られた吉村泰典教授に感謝いたします。

更に以下の方々(順不同、敬称略)より写真など資料の提供などご協力をいただきましたことに深甚の感謝を申し上げます。

JJ Sciarra, 杉本百代、岩田嘉行、杉並 洋、吉村泰典、久布白兼行、
平川 舜、久保春海、森田峰人、可世木久幸、伊熊健一郎、塩田 充、
松崎敏夫